

長～い春休みの過ごし方

★ このプリントは家の人にも見てもらってください。

今年の春休みは長くなってしまいました。

「思いっきり遊べる」はずが、自由に遊べる場所がありません。

「思いっきり頑張る」はずが、部活にうちこむこともできません。

そして…

なんとなく不安です。

このままでいいのかな？…って。

そこで、文理の先生からの提案です。

『いつもどおり』遊びましょう。

家の人が見たら、「塾が何を言っているんですか！」と怒られそうです。

でも、いいんです。『いつもどおり』遊びましょう。

ただ、この『いつもどおり』に意味があります。

まずは、『いつもどおり』の生活を思い出してみよう。

朝起きて、学校に行って、6 時間ほど勉強して、2 時間ほど部活をして、3 時間ほど塾に行って、宿題をして、寝る。

この中で、君たちはうまく遊んでいます。

スマホをさわる、テレビを見る、ゲームをする、マンガをよむ、ボーッとする、…すべて遊びです。

そろそろ気づいたかもしれません。

『いつもどおり』の遊びは、勉強・部活・塾という「しなければならぬこと」とセットで成立するものなのです。

「やっぱりか…」と思ったかもしれません。

そのとおりです。

勉強するために机に向かいましょう。 ← この説明をこれからしていきます。先生の専門です。

部活のかわりに体を動かしましょう。 ← この説明はしません。先生の専門外です。

今、君たちは自由です。好きにしてください。24 時間遊び続けることもできます。24 時間眠り続けることもできます。

でも、そういう生活に少しでも不安を感じるのであれば、先生からのこの提案を受け入れることです。

別に無理なことは何 1 つ提案しません。『いつもどおり』…、ただ、それだけです。

努力の上に遊びは成り立ちます。こういう努力をしてから思いっきり遊びましょう。意味もなくダラダラと過ごすのは最悪です。

こういうことを「ケジメをつける」といいます。

今、君たちは試されています。「ケジメをつけることができるかどうか」

こういうことができたならば、この先に君たちの目の前に立ちはだかるいろいろな壁にも立ち向かうことができるでしょう。

このぐらいのことができなければ、この先に君たちは目の前のじゃまな壁から逃げて生きていくことしかできないでしょう。

文理の先生は、日ごろ君たちに勉強を教えています。

目の前に 100 問の問題があるとします。

文理の先生が君たちに教えるのは 100 問すべてのわかりやすい解答ではありません。それならばネットの動画の解説授業を見れば解決します。

文理の先生が君たちに教えたいのは、10 問の解き方を君たちと一緒に考えることで、残りの 90 問を君たちが自力で解けるようにすることです。

今回の提案も、「自分の力で物事に立ち向かうための方法の 1 つを君たちに教えたい」、ただそれだけです。

じゃあ、何する？

今、3月です。

世の中の場合、12月が1年の締めくりとなるのですが、学校の場合、学年のかわる3月が1学年の締めくりです。そこで、この長い春休みを利用して、学年の締めくりをしましょう。

何をするか。

文理学院では君たちに『試験整理ファイル』を渡してあります。

そこには、これまでの定期テストの問題がファイルされています。

新中学2年生であれば中学1年生の5回分、新中学3年生であれば中学1年生と2年生の10回分。それを使いましょう。

君たちはこの1年間がんばって勉強してきました。

そのなかで特に目標としてきたのは「定期テストの点数」ではないでしょうか。

そこで学年の締めくりとして、この1年間の『定期テストの解きなおし』をしていきましょう。

確かに、市販の問題集で1年間の復習をするという方法もあります。

もし、家の人をそれを用意してくれたのであれば、それにも取り組みましょう。

ただ、この『定期テストの解きなおし』にはぜひ取り組んでほしいと思います。

君たちはこれまで定期テストに真剣に立ち向かってきました。

定期テストで点をとるために勉強してきたと言っても言い過ぎではないでしょう。

実は、これは中学校の先生にもあてはまります。

中学校の先生は定期テストで2つのことを確かめようとします。

1つは、生徒の学力。そして、もう1つは、先生の指導力。

1つ目の「生徒の学力」は理解できると思います。

もう1つの「先生の指導力」について少し説明します。

定期テストは日ごろ勉強を教えている中学校の先生が問題を作成します。

塾の先生と違って、中学校の先生は定期テストで点数をとるための授業をすることはありません。

君たちの学力をあげることを考えて授業をしています。

そうすると、気になるのは「先生の思い描いている通りに君たちの学力が向上しているか」ということです。

それが「先生の指導力」です。それを中学校の先生は君たちのためにきちんと確かめたいのです。

だから、中学校の先生は真剣に定期テストの問題を作るのです。

たとえば、庭代台中学校の場合…

英語の荒岩先生のように、単に覚えているだけでは不十分で、きちんと理解を確かめる問題を出題する先生もいます。

英語の中村先生のように、毎回、生徒の点数のとり方を分析して、問題のレベルを調整して出題する先生もいます。

数学の飯田先生や奥村先生のように、新研究を使い、教科書以外の高校入試を見据えた問題を出題する先生もいます。

国語の北野先生のように、記述の問題を字数指定せずに出題することで、解き方よりも文章の理解力をためす先生もいます。

理科の桐井先生のように、基礎・基本が理解できているかを1つ1つ丁寧に確認する問題を出題する先生もいます。

理科の羽田先生のように、難問も出題することで本質が理解できているかどうかを確かめる問題を出題する先生もいます。

社会の秋本先生のように、細かく出題内容を指定することで、君たちの努力の結果をはっきりと確かめようとする先生もいます。

出題の仕方は先生ごとにいろいろありますが、どの先生も真剣に定期テストの問題を作成していることに違いはありません。

そういう問題だからこそ、やり直すことに意義があるのです。

具体的なやり方を説明します。

【用意するもの】

- ◎ 問題…試験整理ファイルにあるはずですが（なくした人は塾から貸し出します）。
5回のテストでそれぞれ5科目ありますから合計25回分あります。これを1日に1科目、1回分解きます。
- ◎ 解答用紙…塾から配布します。
- ◎ 教科書、学校のノート、学校の問題集（ワーク）

【初級者コース】

- ① 午前9時に机に向かいます。毎日です。
この午前9時というのがポイントです。これで生活のリズムを作ることです。
時間をはかって1科目1回分のテストを解きます。
- ② 解き終われば、当然、答え合わせをします。
このときに、答えを赤で写しておしまい、という愚かな行為を絶対にしないこと。意味がありません。
まずは赤で○か×だけをつけます。そして、×の問題を消しゴムで消して解きなおします。
このときに自力で解きなおしてもいいのですが、それだけではなく、いろいろなものを調べて解きなおしてみましょう。
この調べるという作業をすることで、これまでの記憶をよみがえらせることができます。
それが十分にできたら、次に青で○か×をつけます。そして青の×は答えを書き写します。

ここまですが初級者コースです。ここまでの内容にだいたい毎日2時間ぐらいかければ十分だと思います。
(ちなみに初級者とは定期テストで学年平均を目指す人レベルです。)

【中級者コース】

- ③ 午後1時にもう一度机に向かいます。これも毎日です。
昨日といった問題をもう一度解きなおしてみましょう。
昨日のことです。満点がとれるはずですが、とれなかったら理解が足りないということです。
もう一度、②と同じやり方で答え合わせをしてみましょう。

ここまですが中級者コースです。1回目とくらべると早くできるはずなので、だいたい1時間半ぐらいで終わると思います。
(ちなみに中級者とは定期テストで400点を目指す人レベルです。)

【上級者コース】

- ④ 午後1時に机に向かうのですが、中級者とはやることをかえます。
テストの範囲表を用意します（なくした人は塾で用意してあげます）。
翌日にするテストのテスト勉強をしてみましょう。絶対に問題を見てはいけません。
ただ、何が出題されたかは知っているのので、予測はできます。その上で、テスト勉強をします。
数学や理科ならば問題を解きなおす。英語や社会ならば語句や文章を覚えなおす。
やっておきたいことはいっぱいあります。それを1科目1回分に専念して思いっきり勉強するのです。
翌日の朝9時からのテストで100点がとれれば完ぺきです。

これが上級者コースです。④の勉強に時間をかけたぶんだけ、翌日の①の勉強が楽になります。
(ちなみに上級者とは定期テストで450点を目指す人レベルです。)

以上のことを1日の日課として、それ以外の時間に「学校の宿題」と「塾の宿題」をすすめていきましょう。

これが文理の先生からの提案です。

もう1つ提案があります。

今回の休みは、本当は勉強以上に深刻なものです。

今回のことで世界中にはいろいろなところで苦しんでいるひとがたくさんいます。

自らの命を奪われた人、大切な人の命を奪われた人、夢や希望が失われた人…。そして、『いつもどおり』の生活を奪われた人。この『いつもどおり』の生活を奪われた人の中には、当然、君たちも含まれています。そして、君たちの家族もです。

「勉強をしなさい」と言いました。でも、勉強だけがすべてではありません。勉強以上に大切なことがあります。

いつもなら学校に行っている時間に君たちは家にいます。家の人はその分だけ用事がふえます。

また、家の人が仕事をしていればなおさら大変です。世の中はもっと大変です。仕事のこと、家庭のこと、本当に大変です。

そこで、君たちにもう1つの提案です。

それは、『いつも以上に家の人の手助けをすること』です。

これは『いつもどおり』ではありません。『いつも以上に』です。

まずは、自分のことは自分でしなさい。家の人にたよってははいけません。

そして、弟や妹がいるならば、君が手本となって、自分のことは自分でするようにマネをさせなさい。

それから、頼まれたことには、「イヤ！」とか「なんで？」ってすぐに答えずに、笑顔で「ウン」とか「ハイ」って答えなさい。それだけです。

最後に…

『いつもどおり』でいられることは、決してあたりまえのことではありません。

「今日」と同じ1日が、「明日」も続くとは限らないのです。

だからこそ、「明日」のことをいう前に、「今日」を大切にしてほしいと思います。

『いつもどおり』に、学校で「バイバイ」といって別れた友だちと、次の日の朝、学校でその友だちに「おはよう」っていえること。この大切さをわかってほしいと思います。